



令和元年度

第 8 回大垣市中学生

ベルギー・ナミュール市研修派遣



2019年9月21日~9月28日

令和元年度フレンドリーシティ交流事業

第8回大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣事業

団員名簿 (学年、五十音順)

派遣期間：令和元年9月21日(土)～9月28日(土)

No.	役名	氏名	性別	学校名 役職名 もしくは 学年
1	団長	たなべ よしき 田辺 美樹	男	大垣市立北中学校校長
2	総務兼通訳	まつおか あつし 松岡 篤志	男	大垣市立江並中学校教諭
3	総務	よしやす みえ 吉安 三恵	女	(公財)大垣国際交流協会 職員
4	団員	いとう ひかる 伊東 輝	男	大垣市立東中学校2年
5	団員	おおはし いちと 大橋 一仁	男	大垣市立西部中学校2年
6	団員	くぜ みなみ 久世 南実	女	大垣市立星和中学校2年
7	団員	しのはら わかな 篠原 和香菜	女	大垣市立星和中学校2年
8	団員	まき まなみ 牧 真奈美	女	大垣市立東中学校2年
9	団員	わたなべ あいか 渡部 藍花	女	大垣市立興文中学校2年
10	団員	いとう そな 伊藤 蒼夏	女	大垣市立江並中学校3年
11	団員	やすだ みお 安田 実央	女	大垣市立江並中学校3年

第8回 大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣団 日程表

派遣期間： 令和元年9月21日(土)～9月28日(土) [8日間]

派遣人数： 11人 (引率者3人(団長1人、総務2人)、中学生8人)

	月 日	現地時間	交通機関	日 程
1	9月21日 (土)	5:00 6:30 7:40 8:55 10:50 15:50 16:30 18:00-19:00	バス 全日空(NH492) 全日空(NH231) バス	大垣市発、バスにて中部国際空港へ 中部国際空港着 空港にて搭乗手続き等 中部国際空港発(成田空港乗り継ぎ、ブリュッセル空港へ) 成田国際空港着 成田国際空港発 ブリュッセル空港着 バスにてナミュール市へ移動 ホストファミリーと対面式と学校紹介 終了後、各ホストファミリー宅へ 【ホームステイ①】
2	9月22日 (日)	終日		《ナミュール市プログラム》 終日、各ホストファミリーと過ごす 【ホームステイ②】
3	9月23日 (月)	8:15 8:30-17:00 17:30		《ナミュール市プログラム》 ホストファミリーの送りにより学校集合 中高一貫校(Institut de la Providence (Champion))訪問 [授業体験、大垣の紹介、チョコレート作り体験など] ホストファミリーの迎えによりホストファミリーの家へ 【ホームステイ③】
4	9月24日 (火)	8:15 9:00-12:30 12:30-16:00 16:00-16:30 17:30	バス	《ナミュール市プログラム》 ホストファミリーの送りにより学校集合 芸術系中高一貫校IATA訪問 [時計・ジュエリー工房見学、写真スタジオでの撮影など] ナミュール市内見学(ナミュール城砦など) ナミュール市表敬訪問 ホストファミリーの迎えによりホストファミリーの家へ 【ホームステイ④】
5	9月25日 (水)	8:15 10:30-15:45 18:30-21:00	バス、電車	《ナミュール市プログラム》 ホストファミリーの送りにより学校集合 リエージュ見学 さよならパーティー(ホストファミリー参加) 【ホームステイ⑤】
6	9月26日 (木)	8:00 9:30-16:30 18:00	旅行会社バス	ホストファミリーの送りにより集合後、ナミュール市出発 ブリュージュ訪問[マルクト広場、運河クルーズ、聖母教会] ホテル着(ホテル内または周辺のレストランで夕食) 【ホテル泊(ブリュッセル)】
7	9月27日 (金)	9:00 10:00-11:00 13:00-16:00 17:40 19:00 21:10	↓ 全日空(NH232)	ホテル内で朝食 チェックアウト後ホテル発 ワートルロー訪問[ライオン像の丘、パノラマ館] ブリュッセル訪問[グランプラス、サンカンテネール公園、王宮] ブリュッセル空港へ移動 ブリュッセル空港着後、搭乗手続き ブリュッセル空港発(成田空港乗り継ぎ、中部国際空港へ) 【機内泊】
8	9月28日 (土)	15:40 18:25 19:40 20:30 22:00	全日空(NH495) バス	成田国際空港着(入国手続) 成田国際空港発 中部国際空港着 バスにて大垣へ向け出発 大垣市到着後、解散

訪問先の紹介

ベルギー

	ベルギー	日本
人口	約 1,141.3 万人	約 1 億 2,790 万人
面積	30,528km ²	377,972km ²

【公用語】

3つの公用語があり、主に北部はオランダ語、南部はフランス語、ドイツ国境近くの一部ではドイツ語が公用語です。またブリュッセル首都圏では、オランダ語とフランス語が公用語で、公共の案内は2つの言語が併記されていました。

フレンドリーシティのナミュールは、フランス語圏に位置しています。



【料理】 おいしい料理がたくさんあります。いくつかを紹介します。他にもワッフルなどスイーツもいろいろありました。



▲ムール貝



▲フリッツ



▲リエージュ風肉団子



▲ジビエ料理(うさぎなど)

大垣市のフレンドリーシティ・ナミュール市

	ナミュール市	大垣市
人口	約 11 万人	約 16 万人
面積	175.50km ²	206.52km ²



▲ナミュール市の市庁舎

ナミュール市は、ベルギーのほぼ中央、首都ブリュッセルの南東 60km に位置するナミュール州の州都です。市の中心部には、サンプル川とムーズ川が合流し、古くから交通の要衝として栄えたことから、中世には軍事の要衝として多くの城砦が築られました。街並みには、その歴史遺産



▲ナミュールの街並み

が今も引き継がれ、中世ヨーロッパの面影を残す景観は「ムーズ川の真珠」と讃えられています。市内には、観光名所の「城砦」をはじめ、世界遺産の「鐘楼」があるなど、歴史・文化が息づく都市です。



▲ナミュール城砦

大垣市とは、1998年(平成10年)、大垣市制80周年の年にフレンドリーシティとなり、以降学生交流を中心に、交流をしています。

第8回ベルギー・ナミュール市研修派遣団

大垣市立北中学校 校長 田辺 美樹

<研修派遣事業の目的>

「明日の大垣を担う少年少女たちをフレンドリーシティのベルギー・ナミュール市へ派遣し、現地の同世代の少年少女たちとの交流を深め、異なる文化・歴史・価値観などを学び合い、個性豊かな人材の育成と、両市の友好の絆をさらに強くすること」

この目的を達成すべく市内10中学校から選ばれた団員は、5中学校、男子2人・女子6人、3年生2人・2年生6人の8人である。「ホームステイをしたい」「親元を離れ、海外に行ってみたい」「本場ベルギーのスイーツを食べたい」等々、この8人に「ベルギーに行きたい」という思い以外には接点がないように思われた。よって、指示されたことはできるが、話し合いを始めても話し合いにはならなかった。しかし、国際交流協会の吉安さんがノウハウを身に付けてみえ、フランス語や英語の学習・出し物の練習等を立て続けに、しかも関わりをもたせて行うことで、互いが互いを知ろうとする集団になっていった。結果、最後の事前研修では、吉安さんが「目標は？」と言うだけで、8人が頭を突き合わせるように集まり、「ステップアップ～責任・挑戦・コミュニケーション～」という目標をすぐに決めるまでに至った。



出発当日、この日は私の55歳の誕生日。時差が7時間あるため、1日が31時間あり、人生で一番長い誕生日となった。大垣を出発してベルギー・ブリュッセルに着くと、思わず8人とオラフ校長からのハッピーバースデーソングとカードのプレゼントがあった。ナミュールに着くと、8人のホストファミリーの皆さんが出迎えてくれた。その対面式の中でも、ホストファミリーの皆さん50人ほどの2回目となるバースデーソングの大合唱でお祝いをされた。その集団性が団員個々の安心感につながっていたが、ホストファミリーでは一人で生活することになる。フランス語を6時間勉強した程度では、会話ができるはずもなく、片言の英語も通じず、1・2日目は涙をこらえる団員・体調不良を訴える団員もいた。しかし、逃げ帰る術もないベルギーである。我々の心配をよそに、ホストファミリーと共に食事をしたりホストブラザー・シスターと遊んだり、日本を説明したり登下校を共にしたりする中で、みるみるコミュニケーションが取れるようになる子どもたちの柔軟性には逆に驚かされた。6日目の朝、ナミュールを発つ時には、ホストファミリーと離れがたく、涙々の別れとなり、出発時刻を30分余り遅らせてしまい、通訳兼ガイドさんに「予定通りに動けなくても私のせいではありませんよ。」と言わせる感動的な別れとなった。

ベルギーの中でのナミュールは、日本の中での大垣に近い。街の大きさ・人口はもちろん、安全性も高い。首都ブリュッセルのような派手さはないが、昔からあるものを大切にする文化的な街で、街全体も人々にも落ち着きが見られ、生活しやすい親しみを感じる街であった。誕生日を締めくくる28時過ぎ、オラフ校長先生行きつけのレストランで花火付きのデザートが運ばれた時、居合わせた人々から3度目のバースデーソングのプレゼントがあった。おかげで、私は幸せな気分ですべてを終えることができた。ベルギーの人の人柄のよさ・移住する人が多い理由も伺われる。

8日間の思いを1ページに綴ることはとてもできないが、団員が「ベルギー大好き」「また、帰ってくる」「来年、待っているよ」等と口にすることが、目的を果たしたしるしだと感じている。

最後に、未来を担う8人の中学生に、このような豊かな体験の機会をいただいた大垣市、国際交流協会をはじめとする関係の皆様にお礼を申し上げたい。ありがとうございました。

思いを伝える言葉

大垣市立江並中学校

教諭

松岡 篤志

今回の派遣団が訪問したベルギーは、オランダ語、フランス語、ドイツ語を公用語とする国家です。北部に位置するフランデレン地域ではオランダ語を使い、南部のワロン地域ではフランス語、ワロン地域の北東ごく一部のドイツ国境地域ではドイツ語を使います。首都ブリュッセルでは、オランダ語とフランス語の両方が使われます。



派遣団の受け入れをしてくれたチャンピオン学校の生徒たちは、外国語として英語を学習します。日本の中学生と同様に、週に4時間の授業を受けています。今回の学校訪問では、英語の授業の一環として、中学2年の生徒たちと文化交流を行い、中学3年の生徒に学校案内をしてもらいました。現地の生徒と派遣団とのやりとりは、和気あいあいと笑顔があふれるものでした。後に派遣団の生徒に聞いたところ、相手の話していることをすべて理解できたわけではなかったようですが、とても微笑ましいシーンでした。

今回の滞在期間中、私たちが使った言葉は、ほとんどが英語です。市長、オラフ校長、ホストファミリー、現地の学校関係者など、多くの人々と出会いました。説明を聞いたり、情報交換したりしましたが、大きな問題もなく研修を進めることができ、英語の有用性を改めて感じることとなりました。お互いに外国語として習得している言語ですが、コミュニケーションツールとして十分役立ったと思います。

派遣に至るまでに6時間のフランス語研修を行いました。最初に学んだ言葉は、「bonjour」です。私たちは少しでも相手の言葉で話せるようにと、あいさつ程度ではあったものの、準備をしてベルギーに向かいました。ナミュール市長を前にして、生徒たちはフランス語で立派に自己紹介できました。生徒の拙いフランス語に喜んでくれたホストファミリーにも、その気持ちは伝わったと思います。また、現地では、「こんにちは」と出迎えてくれる人がいました。少し安心感が生まれ、癒やされました。母語の場合、言葉には、単に物事を伝えるためのツールとしての役割だけではなく、感情が伴います。母語は特別なのだと改めて実感しました。

ホームステイが最後となった日の夜、派遣団の生徒の1人が、フランス語でメッセージを書きたいので手伝ってほしいと私に頼みにきました。彼女は、ホストファミリーの1人1人にお礼のメッセージを英語で書いていたのですが、ホストブラ



ザーは英語が使えないので、フランス語で伝えたいとのことでした。翻訳アプリを頼りにして、メッセージを完成させました。言語を学ぶ一番のモチベーションは、伝えたい思いがあるということです。本当の思いを適切な言葉で伝えたいからこそ、相手の言葉を使いたいと感じるのだと思います。「lost in translation」という言葉がありますが、本当の思いは、できるだけ失いたくないものです。

団員としてベルギーを訪問した中学生8人は、大垣市とナミュール市の友好を深めたいという高い志をもって出発しました。そして、その気持ちはさらに大きくなって帰国したと確信しています。自らチャンスをつかんだ生徒たちを誇りに思いますし、私たちを温かく迎えてくださったナミュールの方々、派遣団の一員として参加する機会を与えてくださった大垣国際交流協会の皆様に感謝しています。

笑顔の交流を通して

公益財団法人大垣国際交流協会 吉安 三恵

大垣市とナミュール市、交流が始まって 20 年。今までの交流の上に、今回の派遣が実施できたと強く感じています。今後もこのすばらしい交流を継続していくために、「今回の派遣団員全員が異文化の中で心を開いて受け入れ、そして大垣市の代表として友好の絆を強くしてくること」を心に留め研修に臨みました。そのような思いでこの研修派遣事業を終えた今、2つのことが特に印象に残っています。

1つ目は、「笑顔のコミュニケーションと挑戦する心」です。今思い出す生徒の様子は、いつも笑顔でニコニコ。緊張の面持ちもありましたが、それを自分自身で乗り越えていこうとする思い、見るもの体験すること全てに楽しんでいるから笑顔が出ていたように思います。そして何でもやってみようとする姿勢です。学校訪問などで何か体験する時に「誰からやる？」と聞くとすぐに手が上がって率先して挑戦しました。学校で英語の授業に参加した時、ナミュールの生徒とグループに分かれて話をする機会がありました。英語のコミュニケーション力でいうと、ベルギーの生徒の方がずっと上に感じましたが、8人の団員は笑顔を絶やすことなく、自分のわかる範囲で一生懸命に伝えようとしていました。

2つ目は、「立派な大垣のアンバサダーとなったこと」です。例えばナミュール市のマキシム・プヘビオ市長にお会いした際に、突然「みなさん、フランス語で自己紹介をしてください」と。そんな中、堂々と自分の言葉で名前、学年、年齢、好きなことをフランス語で話すことができました。事前研修で練習してきましたが、市長も驚かれるくらい上手に話しました。また、ベルギーのことを学ぶだけでなく、大垣の良さも伝えたいという団員の思いがあり、大垣の紹介や歌、習字の出し物を、学校と最後の夜のホストファミリーとのお別れパーティーで行いました。特にお別れパーティーでの発表が一番だったと思います。聞いていた私も感動しました。ホストファミリーへの感謝の気持ちが込められていたのだと思います。

私自身のことを少し振り返りますと、大垣市とナミュール市との交流に関わって 10 年が経とうとしています。この間、たくさんのナミュールの人々に会い、大垣の生徒たちを送り出してきました。今でも連絡を取り続けている人が多くいる中、今回の訪問の中で、2年前にホームステイさせていただいた家族、数年前に大垣に来たナミュールの生徒、そして去年大垣にいらっしゃった先生と再会したり電話で話したりすることができました。遠く離れていてもどこかに自分のことを思ってくれる人がいるというのは大変うれしいものです。そして、交流というのは滞在している間だけでなく、その後もずっと継続できるものです。8人の中学生にもぜひ交流を継続してもらいたいと強く思います。そして、多くの人に支えられて繋がってきた交流をこれからも大切に、そして今回の経験や感謝の気持ちを次の交流に繋げていくことが、ナミュールを訪問した私たちの使命に感じます。

最後に、8人の団員のみなさん、様々な経験を通して成長したと思います。この経験から感じたことを大切に、これからの人生の岐路に立った時々に思い出してほしいと思います。そして、いつも私たちを笑顔で温かく迎えてくださったナミュールの皆さん、一緒に引率をしてくださった先生、この派遣事業に関わってくださった全ての方に、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。MERCI!!





ベルギーでの思い出



いざベルギー・ナミュール市へ!!

大垣市立星和中学校 2年 篠原 和香菜

今年の5月に行われた試験で大垣市の代表として選ばれた私たちは、ベルギー派遣に胸を膨らませ、ベルギーへ出発することがとても楽しみでした。

7月26日～9月16日までに5回の事前研修がありました。フランス語と英語の勉強、出し物の計画・練習、説明会、出発式を行うなど、コツコツと準備を進めました。

そして出発日。午前5時、家族に見送られて出発!!早朝にもかかわらず、私たちはワクワクして眠れませんでした。中部国際空港に到着すると、緊張の荷物検査がありました。私は海外に行くことが初めてだったので、とてもドキドキしま



しました。中部国際空港からは成田空港まで約1時間かけて移動しました。さあ、いよいよベルギーに向けて出発です!ベルギーまでは飛行機で12時間かかりました。私は楽しみで楽しみで仕方がなかったので飛行中は眠れませんでした。日本時間では午後11時、ベルギーでは午後4時ごろに到着!!現地の空気は新鮮で、何だかドキドキしました。ここから、



ベルギーでの一週間が始まります!

もう、何もかもが新しいことだらけで、日本や家族のことは吹っ飛んでしまいました。でも、海外での生活は慣れないし、ホストファミリーがどんな人なのか、よくわからないので不安もありました。しかし、出迎えてくれたオラフ校長先生がフレンドリーに接してくれたので少し安心しました。



対面式を行ったChampion学校は、お城のようなところです。「日本の学校とは全然違う!すごっ!」というのが私の最初の感想でした。

対面式は、とにかく、すごく緊張しました。楽しみな気持ちと、物凄い緊張が混ざり合って、頭の中は大パニックでした!でも、ホストファミリーは思っていたよりも、ずっとフレンドリーで私たちのことを理解しようとしてくれました。だから、私たちは安心することができました。また、事前研修で習った「ボンジュール!」が通じたときはとても嬉しかったです。1日目はずっとドキドキが止まらなかったけれど、それは不安ではなく、期待に変わっていきました。とっても温かいホストファミリーたちに迎えられて嬉しかったです。

これから、どんな1週間が始まるのか、どんなものがあるのか、たくさんの期待を胸にベルギーを思いっきりエンジョイ!!しようと思いました。学校では決して学べないことをいっぱい体験するために「よおし!頑張るぞー!!」と私は思いました。きっとメンバーのみんなも思ったはずです。

私はこの日のドキドキを今も忘れていません。これから始まる1週間がすごーく楽しみになった日でした!!!



はじめての外国の学校訪問(午前)

大垣市立興文中学校 2年 渡部 藍花



学校に着くと、そこはまるでお城のようでした。高い塔に、広い中庭、そしてお洒落な螺旋階段。見るものすべてが新しく、美しく、日本との大きな違いに驚かされました。

次に、オラフ校長先生から、ナミュール市、学校についての紹介がありました。この説明からも、いろいろな事が分かりました。例えばナミュール城塞。この城の歴史は古く、大垣城よりも昔に建てられたそうです。日本の城とは違い、すべてが石

造りで、門が大きく、城壁はとても大きいというような造りでした。

その後は、ベルギーの生徒と一緒に英語の授業をしました。まず驚いたのが、毎回の授業で必ず座るような指定の椅子がないことです。日本と同じ普通の椅子に座っている人もいれば、ソファに座っている人もΣ(°Д°)!!中には小さい本棚に座っている人もいました(笑)

いろいろな質問をし合って互いのことを知った後は、ちょっとしたゲームをしました!ベルギーの有名な企業や人物のゲームやベルギーでおいしいワッフル、チョコレートの試食もしました😊そして…あの有名なベルギービールの試飲まで(°Д°)ノンアルコールビールでしたが…。味は苦くて、飲んだときについ「うーーーーっ」と言っていました。



楽しい交流の後は、待ちに待ったランチタイムです!学校の生徒よりも一足先に食堂でランチを食べました。その日のメニューはハンバーグでした。日本の給



食で出るハンバーグよりも2倍くらい大きく、びっくりしました。ベルギーでは自分の好きなメニューを選び(デザート、スープなども)その分だけのお金を払うという形式が主流のようです。ハンバーグはとてもおいしく、ソースや付け合せのハッシュドポテト、ブロッコリーまでぺろりと平らげてしまいました。

この午前中だけでもたくさんの発見があり、とても楽しかったです。学校の人たちは皆とてもフレンドリーで、たくさん声をかけてもらいました。一度中国人と間違えられ、素敵な笑顔で「ニーハオ」と声をかけられたけれど、すぐに「こんにちは」と言い直してくれました。また、ベルギーの人たちはとても英語の能力が高く、全く言葉の壁を感じないほど会話が弾みました(^_^)



ちなみに右の写真は、みんなで恋ダンスを踊った時の写真です。みんなが見よう見まねで踊ってくれました((´▽`))



↑これです

はじめての外国の学校訪問（午後）

大垣市立江並中学校3年 安田 実央

<日本の文化発表>

100人以上の生徒の前で、日本の文化を発表しました。事前研修で何回も練習した、出だしの「ボンジュール」をみんなで大きな声で言えたので、少し緊張がほぐれました。日本の場所や大垣城、大垣祭り、マスコットキャラクターを含め、いろいろなものをカタコトの英語でゆっくり笑顔で紹介しました。書道では、ベルギーと日本を毛筆で表し、大きな拍手をもらいました。最後の合唱では、今まで練習してきた成果を発揮することができました。また、私たちが快く迎えてくださった生徒の皆さんに感謝の気持ちを伝えようと、一人一人が頑張ったので、今までで一番声が大きかったと思います。日本の文化発表後、質問タイム



がありました。ベルギーの生徒のみなさんは興味津々に私たちの好きな食べ物や所属部活、学校生活について聞いてくれました。私たちが質問に答えると、様々なリアクションをしてくれました。だから、話すのがすごく楽しかったです。何事にも興味をもつ姿や、積極的に質問をする姿を見て、すごいと感動すると同時に、真似したいと心から思いました。

<学校見学>

ベルギーの生徒と日本の生徒がペアになって学校内の施設について英語で説明をしてくださいました。私は説明の内容をすべて理解することはできませんでした。英語でゆっくりと話してくれるのですが、聞き取るのが難しかったです。しかし、ジュスチャーや簡単な英単語などで、どの教室が何をする場所なのか分かりました。私とベルギーの生徒では英語を習い始めた年は同じです。しかし、英語の知識の理解度には大きな差がありました。きっとそれは私が英語に対する学習意欲が少ないからだと思いました。また、ベルギーの生徒はどんなことに対しても前向きな思いで取り組んでいるからだと思います。ベルギーの生徒のようになるために、これからはどんなことに対しても今まで以上にやる気もちます。そして前向きな気持ちで何事にも取り組んでいきます。



<ベルギーチョコレート作り体験>



チョコレート作り体験は、思っていたよりも難しかった反面、すごく楽しかったです。先生のお手本通りにやっているつもりでもチョコレートに気泡が残ってしまったり、容器からチョコレートがこぼれてしまったりしてしまいました。しかし、見栄えや形をよくしようと集中し、一生懸命作ったので美味しくうなチョコレートができました。手作りチョコをホストファミリーにプレゼントするとすごく喜んでもらえました。夜ご飯後に家族みんなで食べました。話をしながら食べたからか、日本で食べるチョコレートより何倍も美味しかったです。



芸術系の中高一貫校 I A T A 訪問について

大垣市立西部中学校 2年 大橋 一仁

4日目、僕はベルギーにある中高一貫校 I A T A を訪問しました。朝、ホストブラザーとチャンピオン学校に登校した後、オラフ校長先生の引率のもと路線バスに乗って出かけました。

I A T A という学校は、日本でいう専門学校のような学校で、中学校 1 年生から高校 3 年生までの約 1,900 人が 28 個もの分野に分かれて勉強しています。今回は、その中の「時計」、「宝石」そして「写真」の 3 つの学科を見学させていただきました。



1 つ目の時計学科では、時計を製作したり、古い時計を修理したりしていました。細かいパーツを 1 つ 1 つ丁寧に組み合わせていました。僕は、時計作りでは必須のルーペを使って実際に見せていただきましたが、時計をはっきり見るためにピントを合わせる作業がとて難しかったです。高度な技術が必要とされる中、生徒の人達が集中力を落とさずに作業をしている姿を見てとても感動しました。

2 つ目の宝石学科では、指輪などのアクセサリのデザインをしたり、宝石を磨いたりしていました。生徒の人たちが磨き上げたさまざまな宝石を見せていただきました。宝石はそれぞれ削り方がちがっていて、1 つ 1 つの宝石に特徴があり、とてもきれいでした。この学科では、高価な宝石を扱うので、責任が重大だと思いました。生徒の人たちが一つの作品を完成させるために要する時間が約 30 ~ 40 時間であることを聞いてとても驚きました。



3 つ目の写真学科では、撮影スタジオで照明を使ったりして写真撮影をし、撮影した写真をパソコンで編集したりしていました。今回の見学では、団員 1 人ずつ写真を撮ってもらえました。生徒の人たちに角度や動きを指示されてモデルの気分になりました。撮ってもらった写真を見てみたら、とても芸術的だったのでびっくりしました。

芸術学校 I A T A の訪問を通して、ベルギーには、小学校で将来自分の進みたい道を決め、中学校から 1 つのことに真剣に取り組んでいる自分達と同年代の人達がたくさんいることを知ることができました。この訪問は、今の自分を見つめ直すよいきっかけになりました。このきっかけを無駄にすることなく、勉強や生活のいろいろな場面で、何事にも真剣に取り組んでいくようにしたいと思います。

写真学科の生徒に撮ってもらった写真



市役所訪問と市内見学

大垣市立東中学校2年 牧 真奈美

4日目に行ったナミュール市長表敬訪問ではナミュール市長に直接お会いすることが出来ました。驚いたことは、市長がとてもフレンドリーだということです。とても気さくな方で、お話の中にジョークを混ぜたりしていて、とても面白く、そして楽しく聞くことが出来ました。そこで頂いたナミュールのマスコットキャラクターは可愛らしい日本のゆるキャラとは違い、少し不気味でした。市役所の建物はロビーやブースがとても広く、綺麗でした。



ナミュール市内は、どこの街もそうなのですが、とても古い建物がたくさんありました。窓ガラスの面積が小さい家ほど古い家だそうです。例えば、左の写真の真ん中の建物のように窓ガラスの小さな建物は十三世紀のものだそうです。中世時代はガラスが高価だったため、大きな窓を作ることができなかったと聞きました。また、チョコレートの店もたくさんあり、流石チョコの有名な国だと思いました。



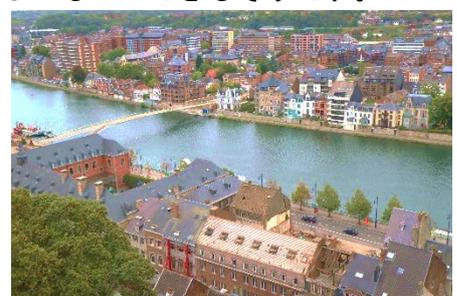
しばらく市内を見学した後、ナミュール城砦に行きました。ナミュール城砦はシタデルともいわれている中世の城砦です。丘を登った上にあり、そこから見た景色はとてもきれいでした。何故か亀に乗った少年のモニュメントがあります。

この城砦の上には香水屋があります。有名な香水屋だそうで、日本語の紹介ビデオもありました。値段も高く、どれも、とても素晴らしい香りがしました。何故城砦の上に香水屋を建てたのかはわかりませんが、城砦の上から街の景色を見ながら香水の香りを楽しむのはとても粋だと思います。



その後、最近オープンしたばかりのカルチャーセンターに行ってお見しました。そのアートとは、色々な楽器をくっつけて虫の形にしたものです。例えば左の写真の虫だと、トロンボーン、テューバ、アコーディオン...など、沢山の楽器が使われています。使われている楽器はとても古い楽器で、こういったことに使うことはとても良いことだと思います。

今回ナミュール市内を見学して、伝統あるものと新しいものが街の中に混在していて、歴史を感じながらも新しいものにも常に触れられるとても良い街だと思いました。街にある古い建物もどんどん修繕されている様子もありました。ナミュールの駅も新しいものができるそうです。ベルギーの中ではあまり大きい街ではないそうですが、岐阜や大垣よりもたくさんの歴史的な建物があり、そして綺麗でした。日本の街とは違った良さもたくさんありました。そういった日本と違うところも沢山見つけることができ、改めての日本のことを見直せた市内見学となりました。



リエージュ訪問とさよならパーティ

大垣市立東中学校2年 伊東 輝



5日目はリエージュというワロニー地方で最も大きな町へ行きました。大きな町で、ワッフルが有名という事でとてもわくわくしながら出発しました。この日は水曜日で学校が半日と言うこともあって僕たちのホストブラザーやホストシスターと一緒に電車に乗って出かけました。

リエージュ駅は大きく、そしてとても綺麗で大変驚きました。最初にワロニー地方の博物館へ行きました。博物館ではベルギーの昔の生活の様子が模型で展示されており、その中に、ベルギーの昔の教室がありました。日本とは学校の授業の受け方や町の風景が全く違い、ベルギーの歴史に触れる事ができ良く学ぶことができました。



昼食はバーガーキングで食べました。日本のファーストフード店のようにドリンクが出てくるのかと思っていたら、カップだけで出てきてとても驚きました。よく店内をみたら店内にドリンクバーがあり、そこでもらったカップに自分で入れて飲むんだよと教えてもらいました。ポテトには塩ではなくマヨネーズがついてきました。そこでも日本との食文化やマナー面での文化の違いを感じました。

昼食からはホストシスターなどと一緒に子どもだけで行動しました。近くのスーパーで買い物をしましたがチョコレートだけで種類がたくさんありどれを買えばいいのかとても悩みました。その後、電車とバスで学校に帰ってからさよならパーティの準備をしました。

5日間最後までやさしく、楽しく接してくれたホストファミリーとも明日でお別れなのかとさみしさを抱きながらホストファミリーに手紙を書いたり遊んだりして過ごしました。

そして、さよならパーティではプレゼントを渡しました。そのパーティでは、大垣の紹介もしました。最後の合唱ではホストファミリーにお世話になったことを思いだしながら心を込めて伝えるように気持ちを込めて歌いました。



その後はみんなで夜ご飯をおいしく楽しくいただきました。自分のホストブラザーとはもちろん他のメンバーのホストシスターなどとも積極的に話し、全員で仲良く食事をしました。日本の伝統的なおもちゃであるけん玉を教えあったりみんなで写真を撮りあったりして最高の思い出になる時間を過ごせました。

お別れという事を考えるととても悲しくつらかったですが、ホストファミリーと過ごした日々は忘れられないものになりました。



ブルージュに包まれて

大垣市立江並中学校3年 伊藤 蒼夏

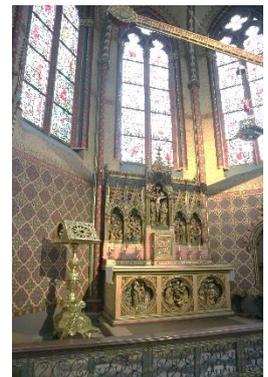
私たちは6日目、ホストファミリーと別れバスでブルージュを訪れました。

ブルージュは、13世紀に栄えましたが、発展が止まったまま、中世の街並みが残されている素敵な街です。

ブルージュでは、運河クルーズという30分程度のツアーを楽しみました。ツアーで見られる街並みはとても美しいものでした。しかし、美しいだけではありません。例えば街並みの景観を壊さないように学校や病院を建築する等の工夫が施されており、日本でいうと京都の街並みのようなことをやっているのだと思うと、親近感が沸きました。また、その街並みにある一軒のビール工場ではビール作りのすべての工程を1から10までその工場一つで作っているようでした。さらに珍しいのは、ビールをトラックなどで輸送するのではなくパイプを通してビールを送っていることなのです。やはり、ビールの本場のベルギーは日本のビール工場とは違うなと驚かされました。そして運河クルーズの大きな河、ここはかつて貿易で栄えており1,000艘もの船がこの河に集まったそうです。ガイドさんは「ロマンを感じる」とおっしゃっていました。共感です。また、中世のままの街並みの中に有名なレース屋さんやチョコレート屋さんがありました。その中のお店に日本人観光客がいて、ベルギーの街並み、ベルギーにいる方の人柄の良さに、惹かれ人気があるのだと納得しました。



聖母教会に訪れると、お祈りをされている方が何人かいらっしゃいました。キリストの誕生のお話も詳しく聞くことができ、人々の信仰の深さをうかがい知ることができました。教会はとてもきれいな建物でした。特にスタンドグラスに使われる中世の技術は、素晴らしく、とても高い建物に透明感のあるガラスが今も残っています。当時のガラス加工技術の高さと職人の方の気持ちに思いを巡らせると何とも言えない不思議な感覚になりました。今は、スタンドグラスに、ホコリがたまっているようでしたが、少しずつ掃除をしてきれいに保っているようです。次にここへ訪れたときはきっともっときれいなスタンドグラスになっているでしょう。昔のものを取り壊し発展させていくだけではなく、昔の人が苦勞してつくった大切なものを残していくことも重要なことだと改めて感じました。



最後に、マルクト広場には一度は乗ってみたい夢の乗り物、馬車が走っていたり、ギルドハウス(中世ヨーロッパの同業者の自治団体、独占など防ぐための組合)があったり、映画でしか見たことのないような活気のある場所でした。このようにブルージュでは、たくさんの歴史や文化を学ぶことができました。

ワーテルロー古戦場跡とブリュッセル

大垣市立星和中学校 2年 久世 南実

<ワーテルロー古戦場跡>



ワーテルロー古戦場跡とは、ナポレオン・ボナパルト率いるフランス軍が、1815年にウェリントン公率いるイギリス・オランダ軍、およびプロセイン軍とワーテルローで対決しフランス軍が負けたナポレオン最後の戦いの場です。約2キロ平方メートルに及ぶ、丘陵地帯でユネスコ世界遺産リスト登録地域です。また、ワーテルロー古戦場跡は、関ヶ原の戦い跡と同じく世界三大古戦場跡です。

近くにはワーテルローの戦いについて知ることができる博物館があります。そこで学んだ後に実際にライオンの丘から風景を観ると当時の、戦いの様子が想像できます。また、41メートルあるライオンの丘の頂からは気持ちの良い風と共に、広大な景色が見渡せられます。頂から見た景色は、私の人生三大絶景に入ります。



<ブリュッセル観光>



私たちは、ブリュッセル観光の日の前日の夜にグランプラスの夜景を見に行きました。グランプラスとはブリュッセルの中央にある「世界一美しい広場」と言われているところです。特に左の写真の“王の家”はひと際、美しくライトアップされていて幻想的でした。

いよいよ最終日にはベルギーの首都であるブリュッセルを訪れて観光しました。やはり首都なので、たくさんの人が観光していました。私たちはまず、サンカンテネール公園を訪れました。その公園の中にはベルギー凱旋門がありました。凱旋門と言えばフランスのエトワール凱旋門のイメージだったので、ベルギーにも凱旋門があることに驚きました。その公園の芝生に寝転んできれいな青空と美しい凱旋門を見ました。とても気持ちよかったです。

次にベルギー最大の観光地であるグランプラスと小便小僧を見に行きました。期待を裏切らない、昼間とは、違った美しさと迫力がありました。その後、グランプラス周辺にある小便小僧(ジュリアン君)を見ました。他にはない斬新な銅像でした。

ベルギーにある建物は100年や200年は経っている歴史的建造物が多くありました。まるで、中世のヨーロッパにタイムスリップしたようでとても楽しかったです。いろいろなことが経験できた思い出に残る楽しい1日になりました。





ホームステイの思い出



第二の故郷

大垣市立東中学校 2年 伊東 輝

僕は3人の男の子がいる5人家族の家にホームステイをさせて頂きました。事前にメールで連絡を取り合っていましたが見たことがなく会話ができるのかという不安でいっぱいでした。しかし、今回僕が応募した理由は、「ホームステイを通して生活習慣の違いを自分の肌で感じたい」という事だったのでとても楽しみな気持ちもありました。



ホストファミリーは会った瞬間から「疲れてない？」や「嫌いな食べ物はある？」などと僕の事を気遣って声を掛けてくれました。ホストファミリーの気遣いのおかげで、僕も少し緊張が解けて、初日から笑顔で過ごすことが出来ました。

2日目は市場へ行きました。市場では鶏のような生き物が丸焼きの姿で売られていて日本とは全く違う光景だけでなく、日本の朝市のような特産物などが売っていて日本と同じようなと思う場面もありました。その後、ホッケーの試合を観戦に行きました。ホッケーを見たことがな



かったのですが、英語でホストファミリーに教えてもらって楽しく観戦することができました。

その日の夜にシャワーを浴びてもよい時間や明日何時に起きればいいのかと聞くと、日本語で「6時30分」と教えてくれるなど、優しく接してくれてスムーズに会話をして過ごせました。

週末の2日間を通してよりホストファミリーとの距離を近づけることが出来ました。また、3日目には、けん玉やお土産を渡し英語で話す機会が増えて、気付くと夜の10時までずっと話すくらいにまで仲良くなることが出来ました。また、僕も今まで習ったフランス語を意識して食事中などに「セボン」など言うと喜んでくれたり、ネイティブな発音まで教えてくれました。さらに、フランス語で言うと、その言葉を日本語で言い返してくれてとても嬉しかったです。

最初は不安ばかりで笑うことも出来なかったけど、ホストファミリーが、常に「大丈夫、何でも言って」と笑顔で話して下さったおかげで、安心して、充実した一週間を過ごすことが出来ました。翻訳機を使って言ってくれた「あなたは私たちの家族の一員だよ」という言葉にとっても勇気付けられて、必ずまたこのベルギーに帰ってこようと強く思いました。

この経験を絶対無駄にしないように、そして、またベルギーに行けるように日本で今まで以上に学びたいです。



僕だけの思い出

大垣市立西部中学校 2年 大橋 一仁

僕のホストファミリーは5人家族でした。家族構成はお父さん、お母さん、ホストブラザーのコレンティンとガブリエル、そしてホストシスターのエミリーです。

この家族と初めて会ったのは対面式です。その時、僕はとても緊張していて、一言も挨拶することができませんでした。そんな時にコレンティンが「ボンジュール」と挨拶してくれたおかげで、僕も勇気が出て「ボンジュール」と返すことができました。その一言は、僕にとって勇気をくれた大事な言葉でした。その夜、僕はホストファミリー1人ずつにお土産をプレゼントしました。お土産の中には日本の伝統的な遊びの紙風船や、竹とんぼを入れました。ホストファミリーはそれに興味を持ってすぐに遊んでくれました。一緒に遊んだあの夜でとても距離が縮まった気がしました。



2日目の午前中には、デレーゼというスーパーマーケットに行きました。そこには、日本ではありえない量のチョコレートやワインがありました。「これってスーパーマーケットなの？」と思ってしまいました。午後にはブイヨンという大きな城に行きました。ブイヨンは丘の上にある城だったので一番高いところまで行くと街を見渡すことができました。それはとてもきれいでした。場内では鷹匠をやっていました。鷹をメインとしてさまざまな鳥を使って芸を見せていました。ホストブラザーと目を見合わせて「WOW!」と言ったのを今でも覚えています。初めて見ることができ、よい経験となりました。



3日目以降、夕方にコレンティンのサッカーチームと一緒にプレーさせてもらったり、ガブリエルとバドミントンやサイクリングをしたりしました。1日目と2日目で体を動かすことができていなかったのもとても楽しかったです。夜ご飯はピザやニンジンのスープでした。日本で食べたことがなかったので、初めて口にする味でした。どれも思い出深いものになりました。また、今回ホームステイをしている中で、ホストブラザーのコレンティンを「ココ」と呼べるようになって、家族の一員になれたような気がしました。

ホームステイをした6日間で日本とベルギーの文化や生活習慣の違いを目で確かめることができたけど、それ以上にホストファミリーやチャンピオン学校で出会ったベルギーの人たちの心の温かさを一番感じました。言葉で伝えることができなくても、伝えようという気持ちがあればジェスチャーなどでコミュニケーションをとることができるかと確信しました。このようにベルギーでの6日間で様々な経験ができたのはホストファミリーのおかげです。感謝します。この経験を日本でも生かし1回りも2回りも大きくなりたいです。そして、大きくなった姿でまた逢いに行きたいです。



ホームステイを通して

大垣市立星和中学校 2年 久世 南実

<ホストファミリーの紹介>

私は、日本が好きなお父さん、親切で優しいお母さん、可愛くてすぐ泣いてしまう妹のジュリアン、そして私の一つ下のリサ（ホストシスター）の4人家族の家庭にホームステイをさせていただきました。



<初めての夕食>

その日の夕食は、庭でトマトやピクルスなどの前菜を食べた後に家の中でパスタを食べるというヨーロッパらしい食事でした。食事中に改めて自己紹介をしたり、日本の文化などについて話したりしました。食事はおいしかったのですが、会話が全然できませんでした。1日目は悲しく落ち込んだまま眠りにつきました。

<2日目から>

私は2日目の朝にベッドの中で気持ちを切り替えて、「Bonjour」と大きな声であいさつをしました。

すると、そこから会話が繋がりました。とてもうれしく、改めてコミュニケーションやあいさつの大切さを知りました。

午前はリサとジュリアンと一緒に日本のスイーツである白玉とベルギー風パンケーキを作りました。白玉の触感が苦手らしく不評でしたが、一緒に作れてとても楽しかったです。



4日目に一緒にリエージュという街へ行きました。教会や博物館、スーパーマーケットに行きました。博物館では中世のヨーロッパの街や暮らしの様子が再現されていました。また、フランス革命で取り入れられた当時のギロチンや実際にギロチンで切られた生首が置いてありました。怖かったです。でも、リサやその友達とも仲良くなれてうれしかったです。

<別れ >



お別れをする前日に全家庭のホストファミリーの方たちとお別れパーティーをしました。習字で名前を書いてあげたらとても喜んでくれました。リサは「理紗」、ジュリアンは「受理杏」と書きました。おいしい食事も食べられてとてもとても楽しかったですが、もうすぐお別れなので悲しくもありました。

お別れ当日は、ホストシスターのリサと別れるのがつらくて号泣してしまいました。ホストマザーは忙しく、きちんとお別れができなかったのが心残りでした。

バスが動き出して少したったところで少しバスが一時停止しました。その時外を見ると、ホストマザーが自転車で追いかけて来てくれているのが見えました。そこでバスから降りて本当の最後のお別れができました。再び号泣しました。

短い間でしたが素晴らしい経験と充実した日々が送れて楽しかったです。また、ホストファミリーに会いに行きたいし、次は日本にも来てもらいたいです。Merci !

和香菜、ついに世界デビュー!?

大垣市立星和中学校 2年 篠原 和香菜



私のホストファミリーは、5人家族です。同い年のシャーロット、弟のエーミール、妹のアリス、お父さんのラファエルさん、お母さんのパトリスアさんです。みんな、とってもフレンドリーで、会った時から大好きになりました。私もベルギー人になった気がしまして、「私、ついに世界デビューかな☆」と思いました。



2日目は朝ごはんにワッフルを作って食べました。しかも大量に。全部とても美味しかったです。ベルギーの人っていっぱい食べるんですね。私のホストファミリーは、「えっ、まだ食べる?」っていうぐらい食べていました。

この日は藍花さんとそのホストファミリーと一緒にナミュール城塞へ行きました。私のぎこちな

い英語を聞いてくれて、説明してくれたので楽しかったです。本当にどんな人でも通じ合えるんだなと思い、感動しました。



3日目は学校訪問の後に、折り紙を教えました。鶴や兜を教えると、「イエーイ!!」という感じで、すっごく喜んでくれました。折り紙を通して、たくさんコミュニケーションをとることができたので自信ができました。

4日目のIATA訪問の後は、藍花さんとそのホストファミリーと一緒にレストランに行きました。フランス語のメニューは全くもって読めないの、おすそめを聞いて、シャーロットと同じ料理を頼みました。すると、鍋いっぱいのもう貝が出てきたのでびっくりしました。その後、ベルギーの本屋さんに行きました。本屋さんには日本の漫画がたくさんありました。シャーロットは「日本の文化はベルギーにたくさん入ってきているよ。」と教えてくれました。そう言ってもらえると、ちょっと嬉しい気持ちになりますよね。



5日目。この日はホストファミリーと過ごす最後の夜でした。たくさん話をしたりけん玉や習字をしたりしました。私はみんなの名前を漢字で書いてあげました。

「^{しゃーろつと}社路都」「^{えーみーる}笑美留」「^{ありす}杏梨好」です。

家に帰ると、ホストのみんながたくさんのお土産とアルバムをくれました。一生の宝物です。

6日目の朝。涙のお別れです。たったの5日間で家族になれたことが本当に幸せでした。「必ずもう一度会いに行こう」と心に決めました。

この短い期間でコミュニケーションをとり、様々なことに挑戦することができました。自分に自信が持てるようになりました。このベルギー派遣事業にチャレンジして良かったです。これからも色々なことに挑戦し、レベルアップしていきたいです!!

ホームステイ

大垣市立東中学校2年 牧 真奈美



私のホストファミリーは、父、母、ホストシスターの Maeline (マエリーン)、そして、3人の弟たちでした。私がホストファミリーと一緒に過ごした4日間にいくつかの場所に行きました。

まず、2日目に「BASTOGN WAR MUSEUM」行きました。そこには、第二次世界大戦の資料がたくさんありました。その中には、日本の真珠湾攻撃のこともあり悲しい気持ちになりました。

その町の教会にも連れて行ってくれました。町の中心に教会があり、とても驚きました。

そのあとに隣国のルクセンブルクのショッピングモールに行きました。EU間なので車でそのまま行けてとても驚きました。そこは、日本のショッピングモールと構造はあまり変わりませんが、ショッピングモールに入ってすぐのところに、ベルギーにもあるチョコレートショップがあり、いたるところにチョコレートショップがあることに驚きました。ホストファミリーにチョコレートアイスを買ってもらいましたが、日本のチョコレートより、とても甘かったです。ベルギーのチョコレートはどれもとても甘く、とろけてしまいそうでした。

その日は最後に日本の国旗がある街に行きました。そこでお茶の店に行きました。紅茶以外にも日本のお茶もたくさん売っていました。

ホームステイの3日目は Maeline の誕生日でした。誕生日パーティをした夜に食べたチョコレートケーキは、なんとお母さんの手作り、とてもおいしかったです。

そのあとは前から私が行きたいと言っていたディナンという町に行きました。そ



こは楽器のサクソフォンを発明したアドルフ・サククスという人の出身地で、町中のどこでもサクソフォンがあり、どれもカラフルでとても面白いものばかりでした。夜だったのであまり観光をすることはできませんでしたが、音楽が好きな私にとっては、とても嬉しかったです。Maeline は誕生日だったにも関わらず、私の行きたいといったところに一緒に行ってくれて、とても感謝しています。

このホームステイで国を超えても変わらない家族のやさしさを混じることができました。

4日間という短い間でしたが、私はホストファミリーに感謝してもきれません。実際、この4日間で一番使った言葉は「merci (ありがとう)」でした。きっと、いや、絶対この体験は一生忘れることはありません。ベルギー、そして、ホストファミリーに感謝！



笑顔であふれた5日間

大垣市立興文中学校 2年 渡部 藍花



1日目

私は、このベルギー派遣でホームステイを一番楽しみにしていました。事前にメールでのやり取りはできたものの、実際に合うとなると、期待と緊張で胸がいっぱいになりました。ずっと会いたかった、ホストシスターのエロイーズと会えた時には、とても嬉しかったです。

2日目

この日は、1日中ホストファミリーと過ごせる最初で最後の日です。朝早くに、私が行きたいと思っていたスーパーマーケットに連れて行ってくれました。そこで、スペキュロス(ベルギーで有名なシナモンのクッキー)を16個も買ったら、家族みんなに

爆笑されました(*´▽`*)

昼食は、ホストシスター同士がとても仲がいいということで、和香菜さんのホストファミリーと一緒に手作りのサンドウィッチを食べました。中に挟む具も日本には無いものばかり！お肉のソースや様々な種類のハムにチーズ。どれを挟んでもとてもおいしかったです。



3日目～

3日目以降は、朝と帰ってきてからしか話すタイミングがありませんでした。しかし夕食の時には、和香菜さんのホストファミリーの家で毎日食べたので、たくさんの人と会話することができました!(^^)!そして、私と和香菜さんが持ってきたおりがみにとても興味を持ってくれました。そこで、折り鶴をみんなで1羽折りました。その他にも、風船や兜なども、きれいに折れました^^



4日目に行ったレストランではムール貝を食べました。そこで出てきたムール貝に私は衝撃を受けました(◎_◎;)なんと、鍋から溢れんばかりのムール貝が目の前に運ばれてきたのです!!まさに目が点です…食べきれるか心配でしたがおいしくてパクパク食べてしまいました(笑)

最終日

バス停につくまでなかなか、今日でお別れなんだ…という実感がわきませんでした。しかし、いざお世話になったホストファミリーを前にすると、涙がこみあげてきて号泣してしまいました。この6日間は、私にとってかけがえのないものとなりました。

まとめ



この体験を通して、ベルギーの習慣や文化、食事など本当にたくさんのことが学びました。フランス語や英語が十分に話せない私を家族として温かく迎え入れてくれました。時には、言葉に壁を大きく感じたこともありました。しかし、福笑いや折り紙の時にはみんなが打ち解け合い、笑い合い、楽しめました。またいつか第二の家族に会いにベルギーを訪れたいです。



国境を越えてできた家族

大垣市立江並中学校3年 伊藤 蒼夏

私のホストファミリーは、お父さん、お母さん、私と同じ年の15歳のアリス、14歳の妹クレモンスト、13歳の妹のルーシーの5人です。うさぎが数羽、とてもかわいかったです♪

私にとって、初めての海外。さらに、日本語を使わない人との生活。英語が苦手な私は、どうコミュニケーションをすればいいのか、とても不安でした。しかし、ベルギーへ出発する3週間前から、メールを通して話すことができ、不安は期待へと変わりました。対面式で「こんにちは、はじめまして。」と温かく歓迎してくれて私のために用意くださった部屋には『SONA』と飾り付けがしてありました。とても可愛くてうれしかったです。あとから聞いた話ですがそれらを考えて飾り付けてくれたのは、一番末っ子のルーシーだったのです。まるで本物の妹ができたみたいに思いました。その他にもたくさんの手料理を出していただいたり、私のために2部屋も用意してくださったりと手厚いおもてなしを受けホストファミリーの温かさを実感しました。



翌日の日曜日には、船に乗せてもらって、ナミュールの街を案内してもらいました。船から見える景色はどれもまるで絵はがきを切り取ったようで素敵でした。

家ではお菓子作りをしました。クッキーをみんなで作りました。普段お菓子作りなんてしたことのない私に親切に教えてくれて楽しく作ることができました。卵の殻が入ってしまった時も砂糖の分量を間違えてしまった時も、アリスもクレモンストもルーシーも優しくフォローしてくれ、寛大な心で許してくれました。私もここで日本のスイーツを紹介したくて白玉団子を作ることにしました。こちらもまたまた失敗・・・。水の分量を間違えたようです(汗)。でもお土産であげたお箸で美味しいと言って食べてくれました。ホッとすると同時にホストファミリーとの距離がぐっと近づいたことを感じました。愛情たっぷりの大量のクッキーは今まで食べてきたクッキーとは比べものにならないほど美味しいものでした。



ホームステイ中に見るものは貴重なものばかりで、特に巨大なハンバーガーが印象的でした。ハンバーガーの完食は難しくお腹がはち切れそうでした。お散歩に行ってお城を見たり、バスケットボールをしたり、ボードゲームをしている時間はあっという間でした。

家族と別れる朝、「また、ベルギーにおいで。これからも連絡を取り合おう。」と言われて涙が出ました。私にとってこのホームステイはかけがえのない時間でした。私には第2のふるさと、家族ができたのです。またベルギーに行くときには成長したフランス語で、成功した白玉団子を一緒に食べたいです。



I love Harvengt family !

大垣市立江並中学校3年 安田 実央

ホストファミリーと初めて対面したときはとても緊張していました。しかし、母のミヒアンをはじめ、父のセドリック、同い年のエリーゼ、弟のエミリアンが優しく声をかけてくれたり荷物を持ってくれたりして、すぐに緊張はほぐれました。ここから5日間の初めてのホームステイが幕を開けました。ホームステイ中で特に印象に残っていることが大きく分けて2つあります。



1つ目は、言語が違う中での生活です。今回の研修で一番不安だったことでもありましたが、ジェスチャーと英単語だけでお互いの言いたいことがわかり、コミュニケーションが取れたのでうれしかったです。また、日本とベルギーの食文化や生活習慣の違いを話し合ったり、食事の前後のあいさつを私はフランス語、ホストファミリーは日本語で言ったりして、互いの習慣を尊重し合うこともできて楽しかったです。私がつ

たないフランス語を話すと、家族みんなで喜んでほめてくれて自然と笑顔になりました。ある日の昼食でレモンジュースを飲む機会があったので飲んでみると、すごくすっぱくて目や口をすぼめました。するとみんなが私の顔をマネして笑いました。私も笑ってしまいました。言語は違っても一緒に笑い合える、助け合える、認め合える、ということがこの5日間で数えきれないほど実感させられました。



2つ目は家族の温かさです。私が何かを話そうとすると、みんなが私の方を見て瞳を大きくして聞く姿勢を作ってくれました。私が何を伝えようとしているのか必死に考えてくれてうれしい気持ちの反面、申し訳ないと思っていました。また、みんなが毎晩寝る前に、わざわざ私の部屋の前まで来て私を呼び、「ボンニユイ」（おやすみ）と言ってキスをしてもらうたび家族の一員なんだと思えました。4日目の夜に新しいレストランに行きました。お金を払おうとしたら両親に「実央はお金を払う必要はないよ。実央は私たちの家族だから。」と言われました。すごくうれしかったので今までで一番の笑顔で「Thank you, I am very happy.」と言いました。最終日の朝は笑顔でお別れしようと考えていました。しかし、エミリアンが号泣しているのを見て私も泣いてしまいました。何かを話そうとすると涙がこみ上げてきてあまり話せませんでした。「みんなが大好き」という気持ちだけは絶対に伝えたいと思い、頑張りました。最後に私の家族一人一人とハグとキスをして「いつか来てね」という言葉

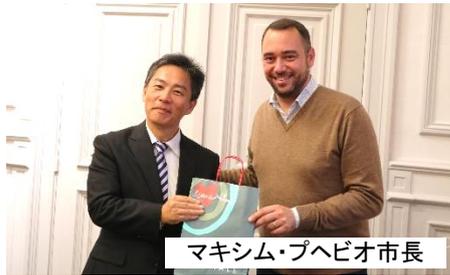
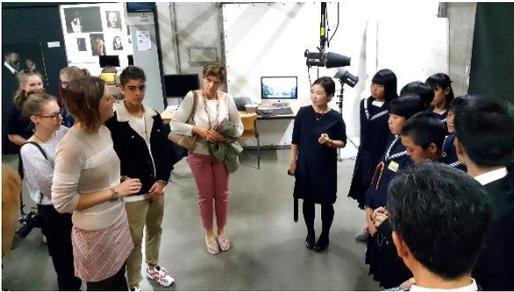


に「ハイ!!」と答えてお別れをしました。ホームステイで学んだたくさんの方のことに周りの人に伝え広めようと思ったと同時に、自分自身はこの思い出をこれからの生活に生かし、未来につなげるということを心に誓いました。





オラフ校長先生



マキシム・プヘビオ市長







【第8回 大垣市中学生ベルギー・ナミュール市研修派遣報告書】

編集 公益財団法人 大垣国際交流協会

大垣市室本町5丁目51番地 スイトピアセンター学習館2階

TEL 0584-82-2311 URL <http://www.i-oiea.jp>

発行 令和元(2019)年11月